

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2025年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		研究科造園学専攻		
科目名称	園芸福祉特論Ⅰ						授業形態		講義	
科目コード	642610	単位数	2単位	配当学年	1	実務経験教員		○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	林 典生								ICT活 用	○
授業概要	人間と植物との関係を理解した上で、幅広い意味での福祉的な視点から植物や緑を捉え、それらと人とのより良い関係を構築するための知識と手法を学ぶために、植物や緑の保有する様々な効果について科学的な観点から検討すると共に、それらを取り入れた園芸福祉の可能性について解説する。また、これらの検討・解説したことを踏まえ、植物や緑と触れることによる効果や役割等を理解し、植物や緑の意義について他者にわかりやすく伝える知識と能力を習得する。									
関連する科目	同時に園芸福祉特別演習を履修するとともに、履修前に人間植物関係学特論Ⅰ、履修後に人間植物関係学特論Ⅱ・園芸福祉特論Ⅱを履修すること									
授業の進め方 と方法	授業の流れは前半にテーマに関する配布資料等で園芸福祉にかかわる基本概念や基本知識を再確認するために講義を行う、後半は事前に指定した国内外の論文・書籍をまとめてきた課題を報告し、意見交換をするなどアクティブラーニング型の授業を行う。									
授業計画	1. ガイダンス 園芸福祉学とは 授業の進め方を説明するとともに、資料の読み方に関する講義を行う。 2. 植物・緑の持つ療法的効果1 五感による効果 植物・緑による五感への刺激による効果を講義するとともに、事前に指定した資料をまとめて発表する。 3. 植物・緑の持つ療法的効果2 作業・活動 植物・緑による作業・活動による効果を講義するとともに、事前に指定した資料をまとめて発表する。 4. 植物・緑の持つ療法的効果3 コミュニケーション 植物・緑によるコミュニケーションによる効果を講義するとともに、事前に指定した資料をまとめて発表する。 5. 植物・緑の持つ療法的効果4 検証方法と事例1 植物・緑の持つ療法的効果検証方法（質的方法）を講義するとともに、事前に指定した資料をまとめて発表する。 6. 植物・緑の持つ療法的効果5 検証方法と事例2 植物・緑の持つ療法的効果検証方法（量的方法）を講義するとともに、事前に指定した資料をまとめて発表する。 7. 園芸福祉1 歴史と概念 園芸療法・福祉の歴史と概念を講義するとともに、事前に指定した資料をまとめて発表する。 8. 園芸福祉2 クライアント別園芸福祉活動プログラム（高齢者） 高齢者を対象にした園芸福祉活動プログラムを講義するとともに、事前に指定した資料をまとめて発表する。 9. 園芸福祉3 クライアント別園芸福祉活動プログラム（しょうがい者） しょうがい者を対象にした園芸福祉活動プログラムを講義するとともに、事前に指定した資料をまとめて発表する。 10. 園芸福祉4 クライアント別園芸福祉活動プログラム（子ども） 子どもを対象にした園芸福祉活動プログラムを講義するとともに、事前に指定した資料をまとめて発表する。 11. 園芸福祉5 クライアント別園芸福祉活動プログラム（コミュニティ） コミュニティに基づく園芸福祉活動プログラムを講義するとともに、事前に指定した資料をまとめて発表する。 12. 園芸福祉の事例1 生活困窮者支援と園芸福祉 園芸福祉を用いた生活困窮者支援に関する事例を講義するとともに、事前に指定した資料をまとめて発表する。 13. 園芸福祉の事例2 刑余者支援と園芸福祉 園芸福祉を用いた刑余者支援に関する事例を講義するとともに、事前に指定した資料をまとめて発表する。 14. 園芸福祉の事例3 多文化共生社会と園芸福祉 園芸福祉を用いた多文化共生社会形成に関する事例を講義するとともに、事前に指定した資料をまとめて発表する。 15. 園芸福祉の事例4 災害支援と園芸福祉 園芸福祉を用いた災害支援に関する事例を講義するとともに、事前に指定した資料をまとめて発表する。”									
授業の到達目標	1. 園芸福祉活動など植物や緑の効果を理解している。 2. 植物や緑の福祉的利用について検討できる。 3. 既往の研究や事例から正確な情報を把握できる。 4. 植物や緑を用いた園芸福祉プログラムを提案できる。 5. プログラムを活用できる場づくりが構築できる。									
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・技能と教養-(1)食・緑」の専門分野における高度な知識・技能／1.知識・技能と教養-(2)未知問題解決のために知識・技能を創造的に活用できる。／2.人間力・社会性・国際性-(1)豊かな個性を発揮して課題を発見し、探求することができる。／2.人間力・社会性・国際性-(2)課題を広い視野で捉え、客観的に評価ができる。／2.人間力・社会性・国際性-(3)主体性を持って多様な人々と協働し、課題解決ができる。／2.人間力・社会性・国際性-(4)自分の文化や異なる文化を理解でき、文化を超えて交流できる。									

授業時間外学習【予習】	第1回目の授業で示す参考図書など、主に基礎的な造園福祉論に関する資料を授業前に読む。また、園芸療法等の園芸福祉に関する実践活動に関する知見を深め、社会的意義を理解するために、身近な活動現場に赴き、その実態や位置づけなどについて考察を深める。2時間程度必要です。
授業時間外学習【復習】	第1回目の授業で示す参考図書など、主に基礎的な造園福祉論に関する資料を授業後に理解が曖昧な時は再度精読する。また、園芸療法等の園芸福祉に関する実践活動に関する知見を深め、社会的意義を理解するために、身近な活動現場に赴き、その実態や位置づけなどについて考察を深める。2時間程度必要です。
課題に対するフィードバック	課題等は確認した後に返却します。必要に応じてコメントします。
評価方法・基準	受講態度や発表、報告物に関して、課題の理解、関係資料の活用、論点の整理、独自の視点について毎回のプレゼンテーションレポート（100%）で評価する。
テキスト	関連書籍及び関連論文
参考書	授業中に紹介するが一例として、以下の書籍を紹介する。 森本幸裕・小林達明編著（2007）最新環境緑化学。朝倉書店（都城キャンパスに蔵書有） 古在豊樹・後藤英司・富士原和宏編著（2005）最新施設園芸学。朝倉書店（都城キャンパスに蔵書有）
備考	近畿圏内の複数の医療・保健・福祉・生涯学習の現場での勤務（社会福祉士・精神保健福祉士と中学校・高等学校教員免許に基づいて）やボランティア活動のなかで園芸療法・福祉の実践を行ってきた。現在も都城地区周辺を中心に実践や人材育成を行っており、それに基づいて授業内容に反映させる。